



主張

生徒の「夢・挑戦」を後押しする「部活動の地域移行」

濱 砂 光 弘

宮崎東中学校の正門を入ると「汗を出そう 声を出そう 知恵を出そう 我が東中」と書かれたモニュメントがあります。勉学・部活動等に全力で取り組み、自分の考えをもち、よいものを創り出していこうという考えで作られた生徒会訓のモニュメントです。私は、この生徒会訓を踏まえ、生徒には「夢・挑戦」というキーワードを使って話をするようにしています。先日行った部活動地区総合体育大会選手壮行会でも、優勝という夢に向かって練習で培った技と精神力で果敢に挑戦するよう、励ましの言葉を贈りました。

宮崎地区では、六月初旬に宮崎地区総合体育大会が開催され、私は女子バレーボールの大会会長の一人を任せられました。本校生徒の試合を応援することができ一石二鳥だったのですが、残念ながら県大会出場の夢はかないませんでした。生徒が、夢を実現するために声をかけ合い、一生懸命ボールを追う姿は感動的なものです。試合後に悔し涙を流す生徒に、部活動を通して得た忍耐力や協調性等は、今後の人生を支える宝物だよと声をかけたのです。中学生からバレーボールを始めた生徒には、新たなスポーツに取り組んだことに誇りをもってほしいと思います。新たな学校部活動の在り方が問われる中で、これまで続いた部活動のメリットも感じた二日間でした。



さて、そのような部活動について、国は令和五年度から令和七年度までを「改革推進期間」と位置付け、地域の実情にに応じて、まずは休日の部活動の地域移行を段階的に進めていくこと等を提言しています。宮崎県は、そのような国のガイドラインに基づき、県の方針を策定しました。本校がある宮崎市においては、「持続可能な部活動と教師の負担軽減」及び「部活動の意義や役割等の継承及び発展」を目的に、令和五年度から令和八年度に向けて、部活動地域連携・移行を進めていきます。そこで、実証事業を行うために、推進モデルエリアを選定し、休日の部活動に「地域部活動指導員」を派遣し、研究と検証を行っています。具体的には、これまでどおりに活動する部活動とともに、A中学校に四部、B中学校に二部の「拠点校部活動」を設置し、その六部には休日のみ「地域部活動指導員」を配置しています。いわゆる「拠点校方式」をとっているのですが、それは在籍校に希望する部活動がない、希望する部活動はあるが専門的に指導できる顧問がいない場合に、参加を希望する生徒を一つの学校が受け入れるものです。今後、推進モデルエリアの取組を検証し、宮崎市内の中学校に広げていくものと考えます。

このように、宮崎県及び宮崎市では、部活動の地域移行に向けて動きが出てきています。しかし、本校の部活動を考えてみると、課題が山積しています。部活動の地域連携・移行に関する保護者や地域の理解促進、地域部活動指導員の人材確保、拠点校となる学校までの移動方法等です。地区総合体育大会で感じたことを記載しましたが、生徒には生涯にわたってスポーツや文化芸術に親しんでほしい、部活動を含めた自分の夢をもち、実現への挑戦をしてほしいと願っています。行政との連携を図りながら、本校で今やれることを、徐々に進めたいと考えているところです。

(全日中副会長・宮崎市立宮崎東中学校長)